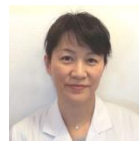
診療時間

月・火　11:30-13:45/15:00-19:30
水　　11:00-13:45

月	火	水
長谷川	長谷川	長谷川 (-13:45)

担当医師 :長谷川 二三代（日本眼科学会認定　眼科専門医）



所属学会
日本眼科学会、日本弱視斜視学会、
日本神経眼科学会

平成4年　帝京大学医学部卒業
　　帝京大学医学部麻酔科学教室入局
平成6年　東京警察病院麻酔科派遣勤務・麻酔標榜医取得
平成7年　帝京大学医学部眼科学教室入局
平成9年　社会福祉法人 聖母会　聖母病院派遣勤務
平成12年 日本眼科学会眼科専門医取得
平成14年 聖母病院眼科医長
平成15年 医学博士取得
平成27年　社会福祉法人 聖母会 聖母病院退職
令和2年4月～　新宿東口眼科医院　常勤医師就任

院長 :新川 恭浩（日本眼科学会認定　眼科専門医）

所属学会
日本眼科学会、日本網膜硝子体学会、
日本眼科手術学会
眼科PDT認定医
水晶体嚢拡張リング（CTR)講習会受講修了

平成13年　熊本大学医学部卒
平成22年　公益財団法人田附興風会　北野病院　勤務
平成26年10月～当院常勤医就任
平成27年9月　当院 院長就任

ごあいさつ

当新宿東口眼科医院は2020年4月より小児眼科専門治療を開設いたしました。
月・火・水曜日に小児眼科医である長谷川医師が診療いたします。
乳児・小児・小中学生の皆様に安心の診療を提供いたします。

アクセス

新宿駅東口徒歩１分、ヒューリック新宿ビルの9階にて診療しております。アルタ並びみずほ銀行のビルの9階です。地下道からはB11出口です。

◀パソコン･スマホでも予約を受け付けております

診療アンケート ▶

よろしければ診療に関するご意見をお願いします。

小児眼科案内

新宿東口眼科医院

新宿駅
徒歩1分
新宿東口のみずほ銀行
ａｕのビル９階

平日
夜19時半迄
祝日も
診療

担当医以下、従業員一同、
真心のこもった眼科診療を
心がけております。

平日は 19 時半まで
受付しておりますので、
お気軽にご利用ください。

常勤の
小児眼科医が
在籍しております

医療法人社団　東京みどり会
新宿東口眼科医院
担当医　長谷川二三代（眼科専門医）
東京都新宿区新宿 3-25-1 ヒューリック新宿ビル 9F
TEL/FAX
03-5363-0507
URL(パソコン/スマートフォン)
https://www.shec.jp
新宿東口眼科　検索

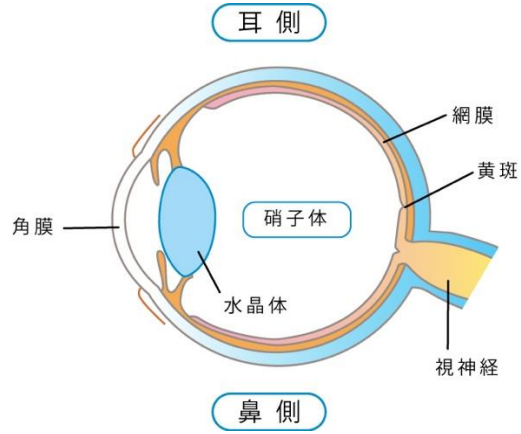
小児眼科の疾患

視力低下

視力低下とは、名の通り視力が低下している状態のことです。
裸眼視力が低下したのか、眼の異常が原因で矯正しても視力がでないのか、原因は様々あります。
何が原因で視力低下が起きているのかを診断してからの治療となりますので、まずは視力低下を引き起こしている原因を明確にすることが必要となります。

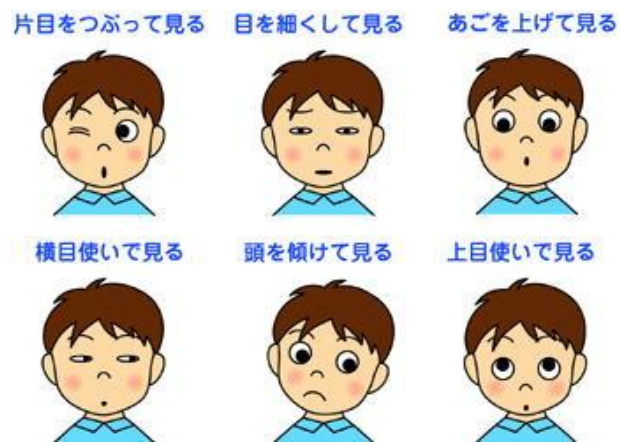
斜視・斜位

斜視とは、外見上は片方の目は正しい方向を向いているのに，もう片方の目が内側や外側、あるいは上下に向いてしまい、両眼の視線が正しく目標に向かない状態のことを言います。
斜位とは、斜視と異なり、神経の緊張で両眼の視線を目標に合わせている状態です。したがって、斜位は通常視線のずれはなく、両眼視が可能です。しかし、片目をかくしたり、覆ってしまったりすると、眼の位置がずれてしまいます。
程度が強く、症状がある時にはプリズムつきの眼鏡で矯正します。



弱視

弱視は小児の目に正確な視覚情報が届かない事によって起こります。
人間の目は、生まれた時から大人のように完全に見えるわけではありません。生後まもなくは視力は0.01ほどしかなく、日常生活を送り色々なものを見て脳を刺激するうちに少しずつ機能が発達していき、3歳で1.0が見えるようになるまで成長します。
この時期になんらかの原因により目に情報が行き届かず、発達が妨げられて起こるのが弱視です。
小児の視力低下や斜視・弱視では、下図のようなサインが見られることがあります。



調節麻痺剤点眼による屈折検査について

斜視や弱視の原因が何かを調べるには、特別な点眼薬を使った詳しい検査が必要です。
私たちの目は、無意識のうちに水晶体という透明なレンズが分厚くなったり薄くなったりすることで自動的にピント合を合わせてくれています。
そして、目の屈折度（近視・遠視・乱視）は、このピント合わせの力(調節力)が働いていない状態の時に検査をしないと、正確にはわかりません。
子供の場合はそのピント合わせの力（調節力）が非常に強いため特別な点眼薬を使ってピント調節を止めて、真の屈折度を調べる必要があります。

調節麻痺作用のある散瞳薬について

調節麻痺作用のある散瞳薬を使った検査は2種類あります。1つ目のものは、5分おきに3回程追加点眼をし、最初の点眼から1時間経過したくらいで検査をします。よって検査がおわるまで1時間30分から2時間程度かかります。点眼してから1～2日間はピントが合いにくく、ひとみが少し大きくまぶしい状態が続きます。
2つ目のものでは、事前に処方された散瞳薬を5日前から自宅で毎日1日3回点眼して頂き、来院していただくこともあります。検査後1週間はピントが合いにくく、ひとみが大きくまぶしい状態が続きます。乳幼児に点眼した場合、結膜や鼻粘膜から全身に吸収されて、顔面紅潮、発熱、吐き気などの副作用が見られることがあります。従って、自宅での点眼にあたっては十分に注意してください。もし万が一、上記症状が現れた時は点眼を中止し、すぐにご連絡ください。
お子さんにとっては、負担の大きい検査ですが、弱視や斜視の原因、正確な眼 鏡を処方するうえでとても大切な検査ですので、ご理解頂ければと思います。